岡山のとしょかん
岡山県図書館協会報
（第 138 号）

大学図書館特集号

くらしき作陽大学･作陽短期大学附属図書館 利用促進のための季節毎の特集展示

くらしき作陽大学･作陽短期大学附属図書館では、コロナ禍を経て、利用制限を設け開放しました。通常開館に戻った現在も来館者数が減少傾向にあったので、利用促進の取組として、令和 6 年度より学内者への新着資料のお知らせ配信に加えて「季節毎の特集展示」を始めました。

この取組は、図書館に関心を持ってもらうため、利用者に役立つ資料を各季節に合わせて貸出提供できるよう始めたものです。当館は、学外者にも利用開放していることから、図書館ホームページにも展示内容説明を掲載しています。

まず、4 月に「春」の展示紹介として、新生活を始める方、大学 1 年生に向けての「新生活応援に関する資料」を選書しました。食生活や料理法、PC 関連、精神的な支えに役立つ心理学等の資料のほか、春の日本行事に関する絵本等を展示しました。色紙で手作りした春の花やお雛様、鯉のぼり等作成した POP と合わせて華やかに飾り付けしました。展示（場所）は、利用者が来館して目につく図書館 1 階入口付近に設置しています。

7 月には「夏」の展示紹介として、フランス･パリにて開催された第 33 回夏季オリンピックにちなんで「オリンピックやフランスに関する資料」を選書しました。オリンピックの競技や歴史、フランス料理やワイン等に関する資料のほか、フランスが舞台となった物語、視聴覚資料等を展示し、作成した POP と共に、折り紙で手作りしたフランスの有名な建物やオリンピックをイメージした様々な国旗やメダル等で豪華に飾り付けしました。

また、10 月には「秋」の展示紹介として、岡山県の形が紅葉の葉の形に似ていることにちなんで「岡山県出身の芸術家や作家に関する資料」を選書しました。重松清さんや原田マハさん（著）の小説や、画家･詩人で有名な竹久夢二に関する資料等を展示し、秋らしい赤や黄色の色紙で紅葉や銀杏等を手作りして POP と合わせて飾り付けしました。

そして、12 月には「冬」の展示紹介として、寒い季節に聴くことで心あたたまり癒される音楽「ジャズに関する資料」を選書しました。ジャズに大きな影響を受けたというザ･ビートルズの全曲解説集や視聴覚資料、ジャズに関する音楽書や楽譜等を展示し、冬の花やツリー、クリスマスカラーの赤と雪を表す白の色合いで雰囲気を出して、作成した POP と合わせて飾り付けしました。

［春の展示］

［夏の展示］

［秋の展示］

［冬の展示］

その他、有名な音楽家や児童文学作家と絵本作家の追悼展示も行いました。興味や関心を示した学内者も見られたことから、引き続き利用促進の為に行っていこうと思います。

（くらしき作陽大学・作陽短期大学附属図書館　村上　波）

新見公立大学附属図書館
教職員推薦図書コーナー

本学の教職員で構成されている教育推進委員会では学生に向けて様々な読書推進活動を実施しています。読書週間ポスターの募集および掲示、1 年間に読んだ本の冊数とジャンルをアンケート調査する読書調査等です。

平成 19 年度からは教職員の推薦図書を募集しており、教職員から 1 人 3 冊程度の推薦図書を紹介文とともに提出してもらい、学生に読書を広める試みを行っています。例年 200 冊以上が集まり、教員の専門である看護・教育・福祉分野の図書だけでなく、小説や自己啓発本など様々なジャンルの図書が紹介されています。推薦図書を通じて普段はなかなか接する機会のない他学科の教員や、よく知っている教員の意外な一面を発見する機会にもなっています。推薦図書は小冊子「私の読書ノート（教職員推薦図書）」にまとめ、4 月に全学生および教職員に配布をしているほか、図書館に設置し学外利用者にも配布をしています。

［小冊子『私の読書ノート』］

図書館では、推薦図書に挙がった図書を全て購入し、1 年間展示をしています。展示スペースは、利用者の目に留まりやすい図書館入口近くに設けています。教職員の紹介文は POP にして掲示をしています。面出しの図書は、貸出率が高い傾向にあるため、毎月入れ替えをすることで長期にわたり学生の興味を引く工夫をしています。長期休暇前には学生が展示スペースの前で吟味する姿が見受けられます。

［教職員推薦図書コーナー］

令和 2 年度からは、本学ホームページに推薦図書紹介ページを新設し、学内外の方へ向けて発信をしています。図書のタイトルをクリックすると OPAC 画面に移動し、貸出状況を確認することができます。

［本学ホームページ　推薦図書紹介ページ］

学年が上がるにつれて国家試験対策や就職活動、卒業研究などで、読書の時間を確保することが難しくなりますが、学生の読書意欲を高めるために継続して取り組んでいきたいと思います。

（新見公立大学附属図書館　木山　知香）

中国学園図書館
図書館大賞

本学の「図書館大賞」という行事は、その歴史が平成 17 年にさかのぼります。当初は「本学図書館の活用と文章表現の向上」を目的として、対象は学内の大学生・短大生で、本学図書館内の図書雑誌等資料をもとにレポート・感想文を募集するというものでした。初年度のみ年度後半に毎月実施しましたが、翌年から平成 22 年までは年間 2 回の実施となりました。平成 23 年以降は年 1 回の実施となって現在に至ります。

■参加校の拡大

毎年行事を積み重ねることで、対象者は本学学生以外にも広がりました。平成 17 年度以降の参加校は以下の通りです。

・平成 17 年から 19 年は当学園の大学生・短大生のみ。

・平成 20 年から 24 年は、総社市立山手小学校も参加。

・平成 24 年から現在までは岡山市立吉備小学校も参加。

・令和 6 年度は岡山市立吉備中学校も参加。

20 年目となる本年度、初めて中学校からの参加が得られました。

この行事が始まった平成 17 年は「読書感想文コンクール」という名称でしたが、平成 23 年以降は「図書館大賞」という名称に変更されました。現在の部門と賞などは以下の通りです。

・小学校の部（1・2 年の部、3・4 年の部、5・6 年の部）。各部門で、学長賞 1 篇、図書館長賞 1 篇、優秀賞 3 篇。

・中学生の部。賞は小学校と同様。

・大学生の部。読書感想文部門と自由部門。賞は両部門とも最優秀賞 1 名、優秀賞 1 名、佳作 1 名。

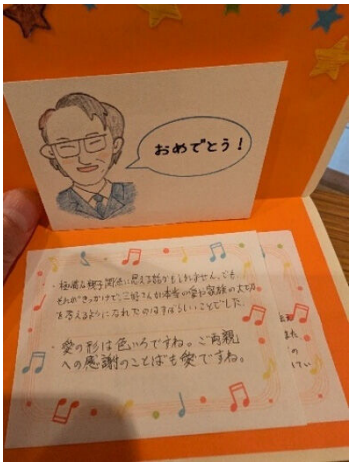
令和 6 年度の応募者数は、小学校部門は計 60 篇、中学校部門は 217 篇、大学部門は計 67 篇でした。なお、大学生の部での自由部門には多数の俳句作品の応募があり、この行事のおもしろい特色となりました。

■地域への貢献

行事への参加者が学内の大学生・短大生のみならず、地域の小学生・中学生にまで広がったことで、この行事が学内向けの作文能力向上のサポートのみならず、小中学生への読書活動啓発の役目も担うことになりました。

決して派手な活動を意識した行事ではないのですが、平成 17 年の開始以降、毎年一定数の参加者を確保しながらこの活動を継続することができました。対象校も試行錯誤的に増加してきた面もありますが、現在では本学の住所を含む中学校区を一まとまりと考えて中学校区内の別の小学校にも参加していただくことも検討中です。

長年の活動のおかけで、この行事が参加校には定着してきた感があります。本図書館が別途実施している地域の方々を対象とする「図書館 de プチ講座」が毎年継続できていることも含めて、当図書館が大学内の一部署であることを越えて、地域への貢献が長年にわたってできていると実感しております。



［受賞した小学生用手作りお祝いポップアップカード］

地道な活動を根気よく続けてきましたが、地域の方々の理解や応援のおかげでここまで続けることができたと感謝いたしております。

（中国学園図書館　平井　安久）

岡山大学附属図書館・鹿田分館・資源植物科学研究所分館
－図書館のお宝紹介（第 11 回）－

岡山大学附属図書館は、津島キャンパスの中央図書館、鹿田キャンパスの鹿田分館、倉敷キャンパスの資源植物科学研究所分館の 3 館で構成されます。本紙第 129 号（2020.3）では中央図書館所蔵の「池田家文庫」をご紹介しましたが、分館も特色ある貴重資料を所蔵しています。今回は、各分館所蔵の貴重資料を中心に紹介します。

1. 鹿田分館

鹿田分館は、医学部・歯学部および附属病院がある鹿田キャンパスに設置された医学系の専門図書館です。約 20 万冊の図書、約 7,000 種の雑誌を所蔵するほか、岡山大学医学部の起源である岡山藩医学館の蔵書を引き継ぐなど、貴重な医学書を多く所蔵しています。

中でも岡山藩医学館旧蔵書、蘭方医・妹尾又玄の旧蔵書などから成る「古医書集成」約 4,000 点は、江戸期から明治期にかけての医学書の一大コレクションで、附属図書館の貴重資料に指定されています。この中には、岡山藩医学館に招聘されたオランダ人軍医ロイトルの講義記録『解剖記聞』、藩医の私塾での講義を生徒が記録した各種の講義ノートなど、本学にしかない貴重な資料が多く含まれています。

現在、「古医書集成」の一部資料をデジタル撮影しており、デジタルデータを公開して広く活用していただけるよう準備を進めています。

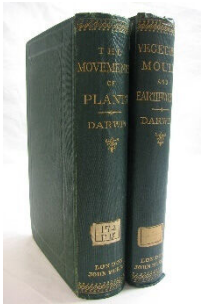
貴重書庫内部

『解剖記聞』

2. 資源植物科学研究所分館

倉敷キャンパスにある資源植物科学研究所（以下「植物研」）の前身は、大原美術館の創立などで知られる大原孫三郎により大正 3（1914）年に設立された大原奨農会農業研究所です。植物研分館は、大正 10（1921）年に設置された書庫および閲覧室に始まり、平成 6（1994）年に貴重書を収める書庫等を備えた「史料館」が完成しました。約 17 万冊の図書、約 14,000 種の雑誌を所蔵する農学・植物学の専門図書館です。植物生理学の世界的な権威であったドイツのペッファー博士旧蔵書約 1 万冊から成る「ペッファー文庫」、江戸期から明治期の農書・本草書を中心とする約 2,500 冊から成る「大原農書文庫」、中国で収集された農業に関する漢籍約 5,000 冊から成る「大原漢籍文庫」が、附属図書館の貴重資料に指定されています。

例年 5 月に実施される植物研一般公開の際などに、これらの貴重資料の一部を使った展示が行われており、ダーウィン自筆の献辞が入ったペッファー文庫の資料などを見ることができます。令和 6（2024）年 3 月には、ペッファー博士のご子孫が来館され、研究所長や分館長の案内でペッファー文庫を閲覧されるなど、資料を通じた交流も生まれています。また、貴重資料の美しい植物の図版を使用した絵はがきを、岡山大学出版会にて販売しています。



上：絵はがき

左：ダーウィン自筆の献辞がある資料

3. 貴重資料の活用

当館の貴重資料を活用した社会貢献活動として、公開講座、こども向け岡山後楽園ワークショップ等のイベントや、岡山シティミュージアムでの池田家文庫絵図展等を開催しています。当館ウェブサイトでご案内しますので、ぜひご参加ください。

（岡山大学附属図書館　佐藤　千春）

美作に息づく文学

■美作市立図書館の常設コーナー

美作市といえば、作家あさのあつこさんの出身地として思い起こす方も多いかと思います。美作市立図書館では、あさのあつこさんの著書を集めたコーナーを市内にある全6館に設置し、利用者の方に手に取っていただきやすい環境を作っています。

■あさのあつこさんと美作市

あさのあつこさんは、旧美作町に生まれました。その後、37 歳の時に児童文学『ほたる館』でデビューしました。『ほたる館』は、温泉旅館を営む祖母と孫娘の心温まる物語です。その後、青春小説、SF、ファンタジー、時代小説など様々なジャンルを描かれ、現在に至るまでヒット作を生み出されています。生家は「ほたる館」※として、今では誰もが利用できる図書館となりました。ここでは、あさのさんの著書や、あさのさんが集めた本を読むことができ、本好きな方の交流の場となっています。

昨年は美作を舞台にした著書『透き通った風が吹いて』を原作に映画『風の奏の君へ』が公開されました。

■最後に

湯郷温泉は開湯して１２００年が経とうとしています。その歴史ある湯のまちの中であさのあつこさんの作品が育まれ、美作の情景が文学を通じて読者の心に広がっていっているのは感慨深いことです。今後も、あさのあつこさんのご活躍を期待しつつ、若い世代にももっと文学に興味を持ってもらうよう、美作市立図書館も活動していきます。

(※)有志団体「あさのあつこの会」が運営する私設図書館

（美作市立中央図書館　高見　義枝）

あわくら会館・図書館主催で村の文化祭を開催

令和６(2024)年11月３日にあわくら会館・図書館と文化協会との共催で「むらみっけ！文化祭 2024」を開催しました。

会場は、あわくら会館・図書館をメイン会場に徒歩圏内の近隣施設に協力を仰ぎ、５会場で実施しました。

出展者は 60 を超え、飲食ブースのほか「あわくら音頭」や「獅子舞」など村の伝統が披露されたステージ発表、出展者と参加者との交流機会も見られた作品展示や体験コーナーなど、多彩なプログラムで村の魅力に触れる機会となりました。

【あわくら音頭　・　獅子舞の様子】

【ワークショップ　・　太鼓演奏の様子】

村にはさまざまな魅力が溢れていますが、それを広く知ってもらう機会が少ないことが課題でした。

このイベントを通して、村民一人一人が主役となり、地域の良さを改めて感じるきっかけとなりました。

今後はこうした取組を筆頭に、当館が掲げる「あつまる、つながる、やってみる、」というコンセプトを体現できるよう、公民館・図書館の機能を充実させ、多くの方の出会いと挑戦の場にしていけたらと思います。

（あわくら会館・図書館　鈴木　宙夢）

黙読会で広がる読書の輪

「黙読会というものをしてみませんか？」そう提案されたのは、北房図書館活動に長年関わって下さっている利用者の方です。翻訳者である斎藤真理子さんが開催されている「沈思黙読会」にアイデアを得たというその会は、各自が読みたい本をただひたすら黙読するという会だそうです。提案を聞いた時、ただ集まって各自がそれぞれ本を読むだけの会を参加者がどのように受け止めるだろうかと思いましたが、ひとまずやってみようということになりました。

令和 6 年 12 月 8 日に初めての黙読会を開催しました。集まったのは私を含め 4 人です。皆さん地元の常連の方だったため、和やかな雰囲気で会がスタートしました。まず黙読会で読む本をそれぞれが簡単に紹介します。各々読む本はジャンルも違えば、選んだ理由もさまざまです。紹介が終わると、それぞれの思いを持っていよいよ黙読開始です。始めは経験したことのない会ということや、他の参加者がどんなスタイルで読むのか、どのくらいのスピードで読むのかが気になり、本に全く集中することができません。他の参加者もしばらく落ち着かないようすでしたが、次第に読書に集中していくのが分かりました。ページをめくる音だけがかすかに聞こえる静かな時間がながれます。それぞれの思いを馳せながら読書に没頭する時間、なんて贅沢なひとときでしょう。あっという間の 90 分でした。

黙読会終了後、参加してみて感じたことをそれぞれ述べてもらいました。ある方は、多忙な日々のなかで落ち着いて読書の時間が取れず、このように集中して読書する時間を設けるのは自分に取って大事なことだと感じたそうです。私も全く同感でした。またある方は、会の感想から自然に読んだ本の感想へと移っていきました。それを聞いているうちに、私も本の感想を参加者で共有したい気持ちが湧いてきました。そして全員の共通の感想は、「来月もやってみたい。」ということでした。

手探りで開催した黙読会ですが、好感触だったことと参加者から継続の希望があったことで、定期的に開催する会にすることにしました。

2 回目は令和 7 年 1 月 12 日に開催しました。参加者は全員初回にも参加されていた方々です。前回同様読む本を紹介し合った後は、それぞれすぐに読書に集中していきました。私も周囲が全く気にならず深く集中して読むことができました。終了後、前回は聞かなかった読んだ本の感想について話してもらうことにしました。思いがあふれて話が止まらないといった方や、他の方が読んでいる本についてメモを取ったり質問したりと、時間が足りないほど話は盛り上がりました。2 回目を終えての気付きは、どんな本をどのような視点から読みたいと思ったのか、参加者がお互いに知りたいと思っているということです。そして、そこから興味の輪が広がり読書の幅が広がるのは間違いないと感じました。

読書は一人静かにするものだと思い込んでいた私は、黙読会を通じて読書の自由を知りました。誰と呼んでもどこで読んでもどんなふうに読んでもいい読書。さまざまな本に出合える黙読会。今後も黙読会を続け、読書の輪を広げていきたいと思います。

黙読会のようす

（真庭市立北房図書館　杉本　直美）

令和 6 年度岡山県図書館協会 研修参加助成事業報告書

研　修　名：令和6年度中国・四国地区別研修
期　　日：12月10日（火）～13日（金）
会　　場：　広島県情報プラザ多目的ホール

講義・演習「図書館における多文化サービス」浜口　美由紀氏（長崎純心大学人文学部教授）

はじめに図書館における多文化サービスの対象となるのは､在日韓国･朝鮮人や留学生、ALT の先生、日本に就労する外国人、国際結婚をした人などという説明がありました。

1986 年の IFLA 東京大会で､日本の図書館は多文化サービスが欠けていると指摘を受けたことが、多文化サービスの始まるきっかけとなったそうです。第 3 回多文化サービス実態調査 2015 が最新の調査で、回答の結果が 1988 年の第 1 回調査とほぼ同様であり、約 30 年間課題が解決されていないことが明らかとなりました。課題として、地域の外国人ニーズが不明、外国語図書の選書発注が困難であることなどが挙げられました。

外国人利用者は図書館がどこにあるか、誰でも利用できることなどを知らないために、図書館を利用できていない背景があるそうです。図書館の場所の周知や多言語おはなし会の読み手になってもらうことで、図書館の利用につなげられるとのことでした。

現在、市内専門学校の留学生に向けて、図書館の利用説明などを行っており、そのつながりを活かし、ニーズ調査や母国語でのおはなし会を開催することができるのではないかと考えました。図書館は遠い存在でないと身近に感じてもらい、利用の輪を広げていきたいです。

講義・演習「地域の情報・交流拠点としての図書館を考える～信州の実践例を踏まえて～」森　いづみ氏（県立長野図書館館長）

図書館の中の課題や悩みを洗い出し、理想と現実のギャップを意識することは大切なことですが、一つ一つ考えると、どうしても「ないない尽くし」になってしまいます。本当に図書館だけの課題であるか、図書館の外側まで含めて考えることも視点として持ち合わせることが必要となってくるとのことでした。

イベントや居場所の提供によって、新たなサービスや資料との出会いといった、予想外の発見や緩いつながりにつなげられ、偶然の出会いを提供することが司書や図書館にとって重要となるとのことでした。

長野県は地域による情報格差が大きく、図書館は何ができるのかを考えたときに、誰でもいつでもどこからでも情報にアクセスできるようにデジタルでつながるという手法を選択したそうです。市町村と県が協働で、電子図書館「デジとしょ信州」を構築することで、これまで情報が届かなかった人などに向けて情報へのアクセスの保障ができるようにしました。また、学校との連携や、アクセシブルライブラリーの導入などにより､「だれ一人取り残さない長野県」を目指しているそうです。

グループワークでは、事前ワークで考えた図書館の課題などを共有し、解決のために必要なことについて考えました。利用層の偏りについての課題が共通であり、利用してほしい中高生などの層に、学校に協力してもらいニーズ調査を行うなどの案が挙げられました。多文化サービスの講義でもニーズの重要性が述べられていましたが、中高生が図書館に何を求めているのかを知ることで、新たなサービスやイベントの企画などにつなげられると考えました。中高生はもちろん市民の新たな発見やつながりを創造できるような図書館を目指したいと思います。

（瀬戸内市民図書館　岡田　楓）

第９８回教養講座に参加して

「ＰＯＰ王直伝！目を引く手書きＰＯＰ作成講座」

講師：内田　剛氏　（ブックジャーナリスト）

期日：令和 6 年 10 月 12 日（土）参加者：61 名

POP の役割は大きく、本を探す道しるべとして一つの手段になっています。効果的な作り方を学びたくて今回の教養講座に参加し、POP 王である内田剛氏からご教授いただきました。

ポイントは「たくさん書くこと」「たくさん見ること」。整っていて上手いものよりも、手書きで気持ちがこもっているほうが印象に残るため、POP から書いた人がじわっと滲み出ている伝わるよい POP になるそうです。

たとえば、表紙が黄色の本の場合黄色の POP を作ったら黒い額縁をつける、素敵な表紙を真似て作りたいところをあえて表紙と真逆の違うイメージで作成する、というテクニカルなお話も伺いました。いずれにしても、フレームづくりから始めるとよいようです。書名や著者名、伝えたい文章やイメージ画などを一つずつ分解してフレームに置いていきます。盛り込みすぎてしまうところから、そぎ落としの作業で伝えたい POP に仕上がります。

1990 年代以降、何でも売れる時代を経た書店の現状や、「本屋大賞」誕生秘話まで、本好きの方が聞いてわくわくする貴重なお話も伺うことができました。子どもたちが本好きになるには、読ませるには、「本の話を普通にしている」「本が常にある」ことだそうです。本学図書館でも利用者と本を結びづける POP づくりに力をいれております。大人も大学生も POP 作成をとおして、作成者と作品や著者とつなぐ POP の力をつかって「作る楽しみ」「さらに読む楽しみ」と広がることを期待したいと思いました。

（就実大学・就実短期大学図書館　神原 亜紀子）

事務局からのお知らせ

■令和 6 年度セミナー・教養講座の資料の提供

今年度開催されました、県図協セミナー（第 1～4 回）、第 98 回県図協教養講座の資料をご提供しています。研修へご参加いただけなかった方へのご提供も可能ですので、必要な方は事務局までご連絡ください。

■異動調査

本年度も例年どおり異動調査を行います。所属・住所等の移動があった方は事務局までご連絡ください。また、入会・退会をご希望の方も併せてお知らせください。なお、様式変更をしておりますので、詳細はお送りしている通知をご覧ください。

■令和 7 年度研修奨励金の募集

現在、令和 7 年度の研究奨励金の交付申請を募集しています。図書館に関する研究であれば、広く交付対象となります。皆様のご応募をお待ちしております。

申請期限：令和 7 年 3 月 21 日（金）

（詳しくは岡山県図書館協会ホームページ掲載の要項をご覧ください。）

令和 7 年 3 月 1 日発行
〒700-0823 岡山市北区丸の内 2－6－30
岡山県立図書館　図書館振興課内
岡山県図書館協会　会長　大西　治郎
TEL：086－224－1269